



# 京大広報

No. 539

1999. 10



お伽草子『祇王』(附属図書館所蔵) 関連記事本文764ページ

## 目次

### 大学の動き

長尾総長のニュージーランド  
及びオーストラリア訪問 .....754

部局長の交替等 .....754

### 紹介

経済学部創立80周年記念  
および関連事業について .....754

日誌 .....756

訃報 .....756

### 保健コーナー

「研究者の職業病」 .....756

### 随想

「我々の祖先をたどるとイヴに至る - ミトコ  
ンドリアイヴ」 名誉教授 大西俊一...758

### 洛書

「効率を求めて大学はどこへ向かうのだろうか」  
桂 義元...759

### 公開講座

総合博物館平成11年度秋季公開講座  
「技術の世界の博物学」 .....760

防災研究所公開講座(第10回)  
“21世紀の近畿地方の防災”  
- 環境としての防災 - .....761

### 話題

国立七大学総合体育大会で10回目の総合優勝,  
近畿地区国立大学体育大会でも  
男子総合で準優勝! .....762

### お知らせ

附属図書館創立百周年記念公開展示会  
お伽草子 - 物語の玉手箱 - .....764

## 大学の動き

### 長尾総長のニュージーランド及びオーストラリア訪問

長尾 真総長は、9月5日から11日まで、ニュージーランド及びオーストラリアに出張した。

この間、オークランド大学を会場として開催された環太平洋大学協会（APRU: Association of Pacific Rim Universities）第3回年次会議に出席するとともに、オークランド大学、シドニー大学（両大学とも本学との「学术交流に関する一般的覚書」交換校）及びオーストラリア国立大学を訪問し、それぞれ副学長及び関係職員と研究・教育の状況について意見交換を行った。シドニー大学では、併せて学生

交流協定を締結した。

第3回年次会議では、今後のAPRU事業について協議が行われたが、本年7月24日から8月14日まで（うち8月2日から8月7日まで本学で実施）行われた、APRU Fellows Programにおける京都大学での取り組みを発表するとともに、今後のあり方について積極的な意見交換を行った。

なお、今回の出張には、森棟公夫 1999 APRU Fellows Program 京都大学実施委員会委員長・国際交流委員会委員が同行した。

### 部局長の交替等

（新任）

経済学研究科長・経済学部長

赤岡 功経済学研究科長・経済学部長の辞任に伴い、その後任として西村周三経済学研究科教授（現代経済学専攻・現代経済学講座担当）が、10月1日経済学研究科長・経済学部長に任命された。任期は平成12年3月31日までである。



（再任）

人間・環境学研究科長

豊島喜則人間・環境学研究科教授（環境関連研究専攻・生物環境システム論講座担当）が、10月1日人間・環境学研究科長に再任された。任期は平成13年3月31日までである。

## 紹介

### 経済学部創立80周年記念および関連事業について

経済学部は1919（大正8）年に学部創設以来、本年で80周年を迎えることとなり、経済学部同窓会の援助をも得て、いくつもの記念事業を企画している。そこで、この記念事業とそれに関連する計画の一部を紹介することとしたい。

まず、10月2日（土）に記念式典を行うことになり、これに併せて「21世紀のアジアの将来」と題する記念シンポジウムを行う。これは、経済学研究科修了者で、中国、タイ、韓国、台湾およびアメリカ合衆国で活躍している若手研究者を招き、現在深刻な様

相を呈しているアジア経済の将来について討論するものである。このシンポジウムは、本学部が従来アジア地域の研究に重点をおいてきたこと、またこの地域からの留学生を多数受け入れてきたことを踏まえて企画されたものである。

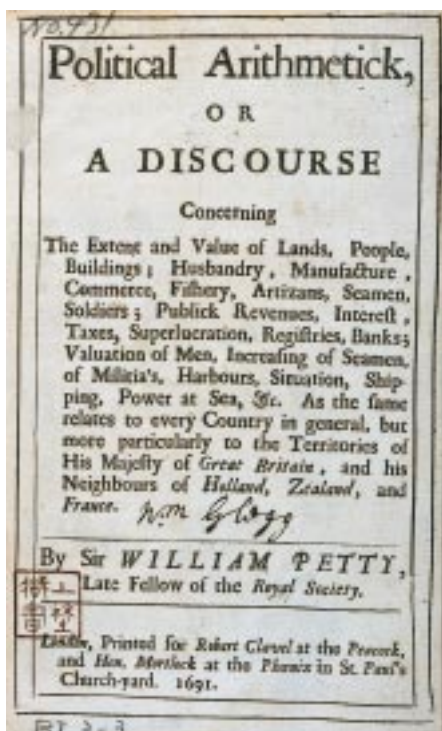
いまひとつの記念事業として、生活に困窮している私費留学生のために同窓生から募金を募り、当面の間に限って生活資金援助を行うことにした。ちなみに、近年の本学部・研究科における留学生の受入れ数は急増しており、1999年8月現在、博士後期課程162人中54人、修士課程151人中41人、学部学生1,162人中49人を占めている。この構成比率は本学において最も高く、しかもその大部分はアジア地域からの留学生である。最近のアジア地域の経済不況のため、多くの留学生の生活が困窮していることから、この事業が企画された。

もちろん記念事業はこれだけにとどまらない。80年の歴史の重みを再認識するために、『京都大学経済学部八十年史』（全280ページ）を編纂し、10月1日刊行の運びとなった。また、本学部所蔵の古典文

献の展示会を10月1日(金)~5日(火)に附属図書館展示ホール(3階)で行う。これは第1部「経済学の系譜」、第2部「和古書の挿し絵にみる生活風景」の2部から構成され、「上野文庫」の一部の展示である。新たに整理されたものを含めて、きわめて資料的価値の高い所蔵品であると自負している。

なお、本研究科は将来に向かって、現代経済学の最先端のトピックの一つである「金融工学」講座の創設を計画中である。近年の日本経済の危機的状況は、金融部門の弱体化にその原因の一つがあると言われている。本研究科では、これまで拡充を図ってきた情報処理関係の講座の助力を得て、金融関係の講座の強化を図ろうとするものである。本学における金融工学の充実それ自体は、やや流行に追従するというそしりを招くかも知れないが、経済史、経済学史などの深い素養のうえに、情報処理能力、数理処理能力を具えた者を育てあげてを目的としており、他大学の同種の講座とは異なる特色を持つと考えている。

(大学院経済学研究科・経済学部)



Petty, Sir William. (1623-87)  
*Political Arithmatick*. London. 1691.

経済学の源流の一つとしての「政治算術」を代表するペティの『政治算術』の第2版。ここでペティは社会現象を数量の比較で把握するという計量経済学のアイディアを説いた。



資料整理により「上野文庫」から新たに発見された「文久三年記」の一部

## 日誌

1999.8.1 ~ 8.31

8月9日 パナマ共和国 パナマ大学 Gustavo GARCÍA DE PAREDES 学長来学，総長及び関係教官と懇談

25日 新キャンパス委員会  
 " 将来構想検討委員会  
 " 建築委員会

## 訃報

吉岡 直哉 名誉教授



本学名誉教授吉岡直哉先生は、9月10日逝去された。享年78。

先生は、昭和18年京都帝国大学工学部化学機械学科を卒業，同大学工学部講師，助教授を経て

同37年教授に就任，機械的単位操作講座を担当された。昭和59年停年により退官され，京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間，文部省学術審議会専門委員などを歴任された。本学退官後は，昭和59年4月から平成5年3月まで岡山理科大学教授を務められた。

先生は化学工学，中でも機械的単位操作に関する

研究において優れた研究業績を残され，その発展に寄与されるとともに，泥漿の沈降濃縮に関する研究，液体サイクロンに関する研究，清澄濾過に関する研究，エアロゾルの濾過に関する研究，非ニュートン流体の流動特性に関する研究の分野において多大の貢献をされた。

また，社団法人化学工学協会の関西支部長，ホソカワ粉体工学振興財団常務理事などの要職を歴任された。

これら一連の功績により，平成7年11月勲三等旭日中綬章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院工学研究科)

## 保健コーナー

## 「研究者の職業病」

後に劣等感コンプレックスの概念で有名になる精神分析学者のA・アードラーは、1898年にその最初の著書である『仕立業のための健康書』を出版している。そこで彼は、特定の職業に就くことにより、その職業につきものの社会的・経済的な諸条件に起因する一定の疾病にかかりやすくなるということを論じている。いわゆる職業病というやつである。ちなみに、当時の零細仕立業に多い病気の一つは、肺の病気であり、肺結核の頻度は他の職種の平均の二倍にのぼったという。零細仕立業者は、じめじめして暗く風通しの悪い作業場で、前かがみで座って働き、布地のほこりを吸っているからである。

カウンセリングセンターで教官や大学院生の話を聞いていると、研究者の職業病というものについて考えさせられる。京都大学の多くの研究室は、国内における、あるいは世界における、トップレベルの研究を生み出している。そこに関わる者のストレスは高くなりがちで、場合によっては心身の健康を害するほどである。

たとえば朝の9時前から深夜遅くまで、土曜・日曜もなし、盆も正月もなしに、実験している人がいると聞く。夜は研究室のソファで寝るといふ。本人が好きでしていることだから、なかなか誰にも止められない。しかしそんなことを続けていたらいつか

は健康を害することになっても何の不思議もない。こういう研究者が、学内には少なからずいるらしい。先頭に立ってやっている本人も大変だが、その下でそれにつき合わされる人たちもまた大変である。

ヨーロッパへの留学から帰国したある院生は、向こうの教授が毎日5時には必ず帰宅し、家族とともに夕食を取ることを最優先事項にしていること、また、学生も週末には必ず休みを取り、平日でも時にはプライベートな楽しみのために早退することを目の当たりにし、ショックを受けたという。彼はその経験から研究者としての自分の生き方について深く考え直すことになったのだが、学内にはそんなことを考えてみたこともない人や、考えないように努力している人も多いようで、よけいなおせっかいかもしれないが、気がかりなことである。

産業界では、日本人は働き過ぎだと批判され、それを抑制する国際的な圧力がかかるのだが、研究の世界ではそんな話しは聞かない。社会的なブレーキがないので、研究者自身が自分でブレーキをかけられないと、暴走してしまって危険なのである。

こうしたことを考えていると、「タイプA行動パターン」についての研究が思い起こされた。心臓病学者であるM・フリードマンとR・ローゼンマンは1975年、狭心症や心筋梗塞のような冠状動脈性心疾患の患者に特徴的に見られる行動傾向を、タイプA行動パターンと名づけ、以下のように記述したのである。すなわち、達成意欲や上昇指向が強く、何が何でもトップに立ちたいという強い競争心を持つ。生活は緊迫感に満ち、せっかちで、他者に対する敵対心が高い。ゲームには、たとえ相手が子どもでも勝たないと気が済まない。仕事に没頭し、常に忙しくしていて、周囲のことにゆっくりと目を向ける暇もなく、美しいものにさえ関心を持たない。論文の数や採用されるプロジェクトの数を積み重ね、成功

することだけを生き甲斐としている。

以来、タイプA行動パターンと冠状動脈性心疾患との関係について、多くの実証的研究が蓄積されてきた。その結果は単純ではなく、性急に断定的な結論を下すことはできないけれども、少なくとも、こうした行動パターンが冠状動脈性心疾患になる危険性を高める傾向は真剣に考慮されるに値するものだという事は認められてきたと言える。

欧米でこのような研究がさかんであるところを見ると、働き過ぎは何も日本人研究者の専売特許ではないのだと気づかされる。とはいえ、常に競争に駆り立てられる中で、創造的・独創的な成果をあげ続けねばというプレッシャーに圧迫されるのは、多くの研究者をさいなむ一種の職業病であるとは言えるだろう。働き過ぎは、いわばそのプレッシャーに支配され、操られている状態であると言えよう。逆に、このプレッシャーに耐えかね、まったく研究から降りてしまう人、大学を去る人もいる。研究者としては、このプレッシャーを受け止め、むしろそれをうまく操って生産的な力として利用できるぐらいなのが理想だろうが、それには、研究上の知識や技術に加えて、人格的な強さを養うことが必要となる。

ところで、私自身も研究者の端くれとしてこの職業病にとりつかれることがあるのだが、そんなある時、精神分析学者D・W・ウィニコットの次の言葉に出会い、慰められたものである。「成熟した人とは傑出した人ではなく、普通に平和なほどよい家庭を築き、周りの人たちに暖かい思いやりを向け続けていられる人である。」

私は、普通に平和なほどよい研究室から、素晴らしい研究が生まれ出されることを願うものである。もちろん、「普通に平和なほどよい」というのは、「甘やかされてルーズでいいかげん」というのとはまったく違う意味である。

(カウンセリングセンター 講師 杉原保史)

## 随想

## 「われわれの祖先をたどるとイヴに至る — ミトコンドリアイヴ」

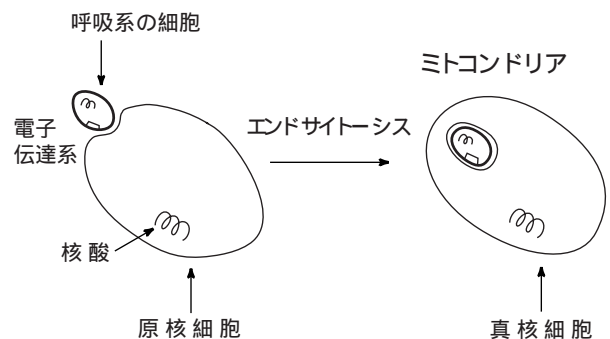
名誉教授 大西 俊一

受精では、母親の卵に父親の精子が融合し、その中身が混合し両者の核酸が合体する。やがてこの受精卵は核酸を二倍に増やし、分裂して二つの娘細胞になる。このような細胞分裂が数十回も起こり赤ちゃんが誕生するが、その性格は両親の核酸に依存するのである。しかし受精のときには核酸のみならず両者のミトコンドリアも混合する。卵細胞の10万個のミトコンドリアと精子の100個のミトコンドリアが混合する。ミトコンドリアにも実は核酸が存在している。しかし卵の細胞はこの精子のミトコンドリアを異物と感じそれを分解してしまうのである。細胞は不要になったものを分解する酵素をもっており、その一つはユビキチンとプロテアソームによるのである。実際、卵は精子のミトコンドリアにユビキチンを結合させることが最近明らかにされた。したがって卵細胞のミトコンドリアのみが残ることになる。われわれの祖先をたどるとアダムとイヴになるが、そのミトコンドリアはイヴのものになる。実際にはアフリカでの人類の祖先の母親になるのである。

細胞が生きるためにはエネルギーを必要とするが、ミトコンドリアはそのエネルギー源であるATP（アデノシン三リン酸）を合成する。外膜と内膜をもっているが、その内膜の電子伝達系が酸素を使って高い効率でATPを合成する。35億年前に原核細胞が地球上に誕生したが、この頃の大気は酸素を含まないので、解糖系を用いてATPをつくっていた。グルコース1分子あたり2分子のATPが合成される。それから数億年経過するとシアノバクテリアが誕生し、その光合成により酸素が蓄積されるようになった。そして酸素を利用する呼吸系の細胞が進化したのである。これはグルコース当たり36分子のATPを合成する。それから数億年経つと真核細胞が誕生したが、これは細胞の中に核や小胞体、ミトコンドリアのような小器官をもっている。どのようにして真核細胞は誕生したのか？ 恐らく原核細胞



が呼吸系の細胞などを取り込むと考えられている。このような共生細胞では、呼吸系のミトコンドリアをもつので高い収率でATPを合成する。われわれは、タンパク質などを合成し、身体を動かし脳を使っているが、これらはすべてATPのエネルギーによるのである。



細胞の取り込み方式としては、上図に示すようなエンドサイトーシスが考えられる。たとえば貪食細胞が細菌を取り込む、咽喉の細胞がインフルエンザウイルスを取り込む、これらは細胞膜の一部が異物を包んで小胞として内部に取り込むのである。貪食細胞では小胞がリソソームと融合して細菌を分解し、咽喉の細胞ではウイルスが融合してそのゲノムを細胞内に移してしまう。呼吸系の細胞の場合は分解反応が起こらず、いつまでも生き延び、分裂を行い、共生してお互いの役に立っている。ミトコンドリアの外膜はもとの原核細胞の膜であり、内膜は呼吸系の細胞の膜で電子伝達系をもつと考えられる。

ミトコンドリアで電子伝達系が働くと、内膜の両側にプロトンの濃度勾配が生じる。この浸透エネルギーを化学エネルギーに変換してATPを合成しているのである。この優れた進化の産物も、その一部でスーパーオキシドを合成している。これは細胞の構成成分を酸化してしまう。生物はそれに対抗して、スーパーオキシドを分解させるジスムターゼを進化させた。ジスムターゼ生成量と動物の平均寿命をプ

ロットすると、両者の間には相関関係があり、生成量が多いほど長生きすることになる。ヒトは100歳の平均寿命をもつことになるが、これはもっとも長

い寿命である。

(おおにし しゅんいち 元理学部教授  
平成5年退官、専門は生物物理学)

## 洛書

### 「効率を求めて大学はどこへ向かうの だろうか」

桂 義元

わずか30年ほどの間に、大学あるいはそれを取りまく状況が大きく変わったことに驚く。1960年代後半の頃、校費として自由に使えた研究費は当時私が所属していた結核胸部疾患研究所では1部門あたり350万円ほどで、庶民用の住宅1戸分に相当する金額であった。その頃と比べて家や土地の値段は10倍にもなっているが、校費は逆に減少して、80年代の初め頃からは研究ももっぱら科研費によってまかなわれるようになった。

科研費にも良い面はある。申請する者は目標をしばって無駄なく研究を進め、お金を配分する側はレベルの高い研究計画を支援するというわけである。しかし何事も理想通りには行かないもので、外国で話題になっている研究と似たものが有利だったりもする。採用にあたっては発表論文の数が重要なので、大学の研究室はどこも火事場のように忙しくなった。世の流れとは無関係にゆったりと仕事をしている人など、もはや居ないかもしれない。

研究領域によっては、あるいは研究の特定の段階では、脇目もふらずに働かなければならない場合がある事は確かである。しかし、常時そのようであっても良くない。大学の中には逆方向へ向かう機能も保たれていることが大事だと思うが、現状は必ずしもそうではない。昨今、研究所を中心に改組がはや

りで、研究室は細分化され、期限付きの部門やポジションまでつくられ、さらには業績の点検評価へと進んでいる。大学は税金でまかなわれている以上、有効にお金が使われているか否かを点検するのは当然という声もあり、それも一理あることではある。学者はもともとは学問が好きになはずであるとは言え、中にはさぼる人も居るので、そのような人が点検評価であわてて仕事をするという効果はあるだろう。しかし、その程度のことでレベルの向上があるとすればいかにも情けない話である。

学問や研究のほとんどの部分は気の遠くなるような単調な作業である。領域にかかわらず、そのような作業を経てきたものでなければ“もう一つの価値観”を形成する力を持ち得ない。大学というのは、これを支援することができるシステムであり、その機能さえ維持されていればあとのことはさして重要ではないかもしれない。そのような環境でこそ、次代を担う人もおのずと育つであろう。京都大学は審査も点検もなかった昔から、それなりに社会へ貢献しえたのではなかったかと思う。少々の無駄は捨て置いても、ゆとりのある環境を保つことの方が重要であるような時代にさしかかっているのではないだろうか。

(かつら よしもと 再生医科学研究所教授)

## 公開講座

## 総合博物館 平成11年度秋季公開講座 「技術の世界の博物学」

昔の技術を調べたり、より広い立場から技術を見直したりする技術史研究は従来から行われてきたものの、文化史的観点からのものが多く、技術研究者による、技術に視点を置いた研究は少ない。

本講座では、大学で永年、工学・技術の最前線で研究を行ってきた技術研究者が講師となって、「技術の世界の博物学」と題し、技術研究者の目から見た技術史を講義する。

下記要領で公開講座を開催しますので、受講希望の方はお申込みください。

## 記

1. 期 間 10月30日(土)・11月6日(土)(計2回)
2. 時 間 各回 午前の部 午前10時～午後0時30分、午後の部 午後2時～4時30分
3. 場 所 社団法人 京都大学医学部芝蘭会 芝蘭会館  
(百万遍交差点南約500m, 東山通り東一条交差点南西50m  
駐車場はありませんので自家用車による来館はご遠慮ください。)
4. 定 員 60人(先着順)
5. 受 講 料 5,500円(全講義を通しての受講料です。納められた受講料は返金できません。)
6. 申込方法 現金書留又は受講料直接持参によりお申込ください。  
現金書留の場合は下記のことを同封してください。
  1. 受講料
  2. 住所・氏名・年齢・職業・電話番号を記入した用紙。(形式は問いません。)
  3. 返信用封筒(表側に宛名・郵便番号を記入し80円切手を貼ってください。  
受講証・領収書等をお送りします。)
7. 持参の場合の受付時間 平日 午前10時～午後4時(正午～午後1時を除く)
8. 申込期間 9月20日(月)～10月22日(金)
9. 郵送先・問い合わせ先 〒606 8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館事業掛  
☎075 753 3274 URL <http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/>
10. 演題及び講師
 

10月30日(土) 午前の部 福井工業大学教授・日本学会会議委員  
京都大学名誉教授 池上 詢  
「科学技術における技術の役割」  
19世紀前半から蓄積された科学的知見が、それまでの経験に基づいて確立されていた技術と合体することによって、科学技術が成立したという理解に立ち、熱機関および輸送機械を例としてその過程について述べるとともに、その後の科学技術の発展における技術の寄与について考える。

10月30日(土) 午後の部 関西大学名誉教授 下間 頼一  
「技術の移転 - 水車とチャリオットのフィールドサーベイ -」  
動力機械の源流の水車、および自動車の祖先のチャリオット(2輪馬車)について、広くユーラシア大陸をフィールドサーベイ(実地踏査)した結果を報告しよう。これらの先駆的技術が現地の風土のなかでいかに発祥し、いかに移転し、いかに発展してきたかを明らかにしたい。

11月6日(土) 午前の部 総合博物館助教授 城下 莊平  
「技術教育 - 明治時代に作られた木製教育模型 -」  
京都大学には、明治時代の大学創立頃からあったとされる蒸気機関車や蒸気機関の木製教育模型が保存されている。構造が理解できるように細部まで忠実に作られているが、模型の製作年や製作者等を示す資料は何も残されていない。これらの模型を紹介し、由来を推理する。

11月6日(土) 午後の部 工学研究科教授 柴田 俊忍  
「技術管理」  
我々はとかく工学の理論的研究や新しい技術の開発に目を奪われがちであるが、事故を解析したり、未然に防ぐ技術を開発したりする研究も同様に重要であることは論を待たない。技術の歴史は事故の歴史であるが、今日の大システムの技術社会にあって技術開発が及ぼす影響等について事故の実例を通して考える。



# 防災研究所公開講座(第10回)

## “21世紀の近畿地方の防災”

### -- 環境としての防災 --

防災研究所は、昭和26年に設立以来、自然災害に関する基礎研究及び災害対策等に寄与するための応用研究を行ってきましたが、平成8年度より全国共同利用研究所として新たな出発を図り、災害の学理と防災のための総合的な方策について研究を推進しています。

今年度は「21世紀の近畿地方の防災」を基本テーマとして、これまでの研究成果に基づく近畿地方の災害の特徴とその防災対策、そして今後の展望を紹介いたしますので、一般市民をはじめとして災害に関心をお持ちの方々のご参加を歓迎いたします。

#### 1. 講座内容

戦後の災害のレビューとして風水害を取り上げるとともに、水、地震、土砂災害に関する研究成果を総括し、その展望を紹介するとともに、社会からの要請として「21世紀の防災研究に何を望むか」に関するパネルディスカッションを行います。

#### 2. 実施期日・場所

期 日 11月25日(木)

場 所 建設交流館グリーンホール(大阪市西区立売堀2の1の2)

#### 3. 受講料 5,500円(テキスト代及び消費税を含む)

#### 4. 募集人員 250人

#### 5. 申込方法

往復ハガキにて、住所(連絡先)、郵便番号、氏名、年齢、職業(勤務先)、電話番号を明記し、また、返信ハガキに宛名(住所、郵便番号、氏名)を記入の上、申し込んでください。

申込みは先着順とし、同ハガキにて受講手続きの通知をします。これにより所定期日までに受講料を郵便振替でお振り込みください。

#### 6. 申込先及び問い合わせ先

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所 総務課研究助成掛 電話0774-38-4010

#### 7. 申込締切日 10月25日(月)

#### 8. 申込結果の通知 11月5日(金)までに各申込者に通知します。

#### 講 義 日 程

#### 11月25日(木)

9:30~10:00	開講の辞	防災研究所長	池 淵 周 一
10:00~11:00	21世紀の課題 - 地球温暖化と気象災害 -	名誉教授	山 元 龍三郎
11:00~12:00	水災害について - 防災システムの過去・現在・未来 -	教 授	寶 馨
13:00~14:00	地震災害について - 21世紀の近畿の地震災害 -	助 教 授	橋 本 学
14:00~15:00	土石災害について - 都市近郊斜面における災害予測 -	助 教 授	福 岡 浩
15:15~16:45	パネルディスカッション - 21世紀の防災研究に何を望むか -		
	コーディネーター	NHK 解説委員	伊 藤 和 明
	パネリスト	朝日新聞企画報道室記者	古 森 勲
	〃	兵庫県防災監	斎 藤 富 雄
	〃	大阪ガスエネルギー文化研究所長	古 館 晋
	〃	建設省近畿地方建設局河川部長	丸 岡 昇
	〃	姫路工業大学環境人間学部教授	草 地 賢 一
	〃	京都大学防災研究所長	池 淵 周 一

話題

国立七大学総合体育大会で10回目の総合優勝，  
近畿地区国立大学体育大会でも男子総合で準優勝！

第38回国立七大学総合体育大会が7月17日(土)の開会式を挟み、昨年12月16日(水)の「アイスホッケー」を皮切りに8月9日(月)の「自動車」まで、35競技種目にわたり大阪大学の主管のもとで開催された。

開会式で次期当番校の長尾総長が挨拶のなかで「今年優勝し、最多優勝校として来年度の本大会をお世話させていただきたい」との檄に鼓舞されたこともあってか、1位種目が10と圧倒的な強さをみせ、2位以下の大学に大差をつけて優勝した。これで、本学の通算優勝回数は10回目となり、東京大学を抜き最多優勝校となった。

また、滋賀医科大学の主管で開催された第37回近畿地区国立大学体育大会では、5月9日(日)の

「ラグビー」から8月29日(日)の「硬式テニス」まで29競技種目において熱戦が展開された。

本学は、男子総合では昨年度に引き続き準優勝したが、女子総合では、健闘したものの8位となった。

なお、これらの二つの大会の成績結果は、別表のとおりである。



長尾総長への優勝報告

第38回 国立七大学総合体育大会 成績表

競技名	北海道大学		東北大学		東京大学		名古屋大学		京都大学		大阪大学		九州大学	
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
アイスホッケー	1位	10	2位	8	5位	3	6位	2	3位	6	4位	4	7位	1
航空馬術	6位	2	不参加	0	4位	4	2位	8	3位	6	1位	10	5位	3
硬式野球	3位	4	4位	2.5	2位	6	6位	1	1位	8			4位	2.5
準硬式野球	7位	1	2位	8	3位	6	6位	2	4位	4	5位	3	1位	10
柔道	6位	2	1位	10	4位	4	7位	1	5位	3	2位	8	3位	6
少林寺拳法	5位	3	2位	8	不参加	0	3位	5	1位	10	3位	5	6位	2
ソフトテニス(男子)	6位	2	7位	1	5位	3	3位	6	2位	8	1位	10	4位	4
"(女子)	3位	6	5位	3	7位	1	2位	8	1位	10	6位	2	4位	4
バレーボール(男子)	1位	10	6位	1.5	6位	1.5	2位	8	4位	4	3位	6	5位	3
"(女子)	2位	8	3位	6	5位	3	1位	10	7位	1	6位	2	4位	4
硬式庭球(男子)	2位	8	5位	3	3位	6	1位	10	7位	1	4位	4	6位	2
"(女子)	7位	1	3位	6	4位	4	2位	8	1位	10	5位	3	6位	2
バスケットボール(男子)	5位	3	2位	8	7位	1	6位	2	4位	4	1位	10	3位	6
"(女子)	6位	2	3位	6	1位	10	5位	3	2位	8	7位	1	4位	4
空手道	3位	6	5位	3	7位	1	6位	2	4位	4	2位	8	1位	10
剣道(男子)	7位	1	6位	2	5位	3	2位	8	1位	10	3位	6	4位	4
"(女子)	6位	2	4位	4	7位	1	5位	3	1位	10	3位	6	2位	8
卓球(男子)	7位	1	5位	3	6位	2	2位	8	3位	6	1位	10	4位	4
"(女子)	4位	4	7位	1	3位	6	1位	10	6位	2	5位	3	2位	8
水泳	不参加	0	3位	6	4位	4	不参加	0	1位	10	5位	3	2位	8
ヨット	1位	10	4位	4	5位	3	2位	8	3位	6	6位	2	7位	1
陸上競技(男子)	4位	4	2位	8	7位	1	6位	2	3位	6	5位	3	1位	10
"(女子)	7位	1	5位	3	1位	10	2位	8	3位	6	6位	2	4位	4
ハンドボール	2位	8	5位	3	7位	1	1位	10	6位	2	4位	4	3位	6
ゴルフ	6位	2	7位	1	4位	4	3位	6	1位	10	2位	8	5位	3
自動車	2位	8	3位	6	7位	1	5位	3	1位	10	6位	2	4位	4
弓道(男子)	6位	2	2位	8	4位	4	3位	6	5位	3	1位	10	7位	1
"(女子)	6位	2	1位	10	2位	8	7位	1	3位	6	4位	4	5位	3
フェンシング	5位	3	1位	10	2位	8	7位	1	4位	4	3位	6	6位	2
洋弓	不参加	0	1位	8	3位	6			2位	8	5位	3	4位	4
陸上ホッケー	5位	3	4位	4	3位	6	不参加	0	1位	10	2位	8	6位	2
バドミントン(男子)	2位	8			1位	10			4位	4	3位	6	不参加	0
"(女子)	4位	4	1位	10	7位	1	5位	3	3位	6	6位	2	2位	8
体操	1位	10	5位	3	7位	1	3位	6	6位	2	4位	4	2位	8
総合得点	2位	8	4位	4	1位	10	5位	3	6位	2	3位	6	7位	1
総合順位	145.0 6位		172.0 2位		137.5 7位		162.0 4位		206.0 1位		170.0 3位		151.5 5位	

第37回 近畿地区国立大学体育大会 成績表

(男子)

得点表

競技名 \ 大学名	滋大	京大	京教大	京工大	阪大	大外大	大教大	兵教大	神大	神船大	和 大	奈教大	滋医大
陸上競技	4	10					7		5				
水泳		7			4		10		5				
野球				5	4		10		7				
軟式野球	10	5						7			4		
テニス		10			5				7		4		
ソフトテニス		7			4.5	4.5					10		
バスケットボール	4	7			5		10						
バレーボール	4.5		7				10					4.5	
サッカー		4			10		7	5					
ラグビー	4.5						10		7		4.5		
卓球	4.5							7	10				
バドミントン	4	7			5		10						
柔道	5	10			4				7				
剣道		10			4.5		4.5		7				
体操競技		5			7		10						
ハンドボール	4		7				10				5		
弓道	5	7			10						4		
計	49.5	89	14	5	63	4.5	98.5	19	55	0	31.5	4.5	0
順位	5	2	8	9	3	10	1	7	4	12	6	10	12

(女子)

得点表

競技名 \ 大学名	滋大	京大	京教大	京工大	阪大	大外大	大教大	兵教大	神大	神船大	和 大	奈女大	奈教大	滋医大
陸上競技			10			4	7				5			
水泳	7				5		10		4					
テニス		5			10				7					4
ソフトテニス	4.5	4.5				10		7						
バスケットボール	7		10						5			4		
バレーボール	4.5					7	10				4.5			
卓球	4.5							7	10					
バドミントン			7				5	4						10
剣道			7			4.5	10				4.5			
体操競技			7				10							
ハンドボール			7		4		10				5			
弓道		10			5			7	4					
計	27.5	19.5	48	0	24	25.5	62	25	30	0	19	4	0	14
順位	4	8	2	12	7	5	1	6	3	12	9	11	12	10

## お知らせ

## 附属図書館創立百周年記念公開展示会

## お伽草子

## -- 物語の玉手箱 --

附属図書館では、毎年秋、所蔵資料を中心とした公開展示会を開催し、京都大学の教職員・学生はむろん、学外の研究者、一般市民にも広く好評をもって迎えられてきました。昨年の古地図展には千人を超える来場者を得、大学公開事業の一端を担っています。

平成11年度は、とくに附属図書館創立百周年にあたり、公開展示会（11月24日～12月7日）をその記念事業の一つとして位置づけ、「お伽草子」を取り上げます。

お伽草子は、室町時代から江戸時代初期にかけてつくられた物語草子であり、赤や黄緑などで美しく彩色された絵付きのものも多く、鉢かづき、物くさ太郎、一寸法師、浦嶋太郎、酒吞童子などの物語は、童話や絵本、テレビアニメなどで繰り返し親しまれ、日本人共通のなつかしい物語の記憶を形作っています。

さいわい、附属図書館はこのお伽草子類の蔵書にめぐまれ、自館所蔵資料に加え、文学部や総合人間学部の協力を得て、約100点を展示します。開館百周年にあたり、この展示会が日本人の読書生活を振り返る一つによすがともなればと願っています。

## 1. 展示会

期 間	11月24日(水)～12月7日(火)(土・日曜日も開催しています。)
時 間	午前10時～午後5時(入場は午後4時半まで)
会 場	附属図書館展示ホール(3階)
入 場 料	無料

## 2. 記念講演会

演 題	弁慶像の展開 -- 御伽草子『弁慶物語』 --
講 師	京都府立大学教授 池田 敬子
日 時	11月29日(月) 午後1時半～3時
会 場	附属図書館 AV ホール(3階)
入 場 料	無料

## 問い合わせ先

附属図書館情報サービス課(内線2626)

## 表紙写真

## ぎわう(祇王)

『平家物語』に取材した作品。白拍子の祇王は平 清盛の寵愛を受けていたが、仏御前の出現によりその愛を失う。祇王は世の憂さを悟り、母とじ・妹祇女と出家し、嵯峨に遁世する。後には仏御前も加わり、四人みな極楽往生を遂げた。本書は葉子十行本『平家物語』に近い本文である。坤巻末では、祇王ら四人の往生を語り終えたあと、弥陀本願・念仏による往生をすすめる文言が付される。(展示会図録から引用)